# 報恩寺伝

へ 13
3378
3

へ13
3373
3

奈良県

# 鞍馬寺伝巻之三

月輪

一 お秀幸治郎と夫婦なる事

附 幸治郎より番頭を預る事

一 お秀幸治郎夫婦の仇名なる事

一 花お親より番頭お徳と事

附 幸治郎方へ治郎吉事

大正十年八月廿日寄贈
本大學出版部

一 手代武蔵殿暇乞事
浦云と沼る事
附 浦云情怒切秀を恨る事

教訓奇談巻之三

切秀幸治郎と見る事
附 能幸治郎の子細を語事

名ある所の寺物淺草寺の観世音と申ハ
坂東指二番の霊場にして利生をお
ろく〳〵ものしら原のさうもくさ郎世
の中をはかんのぎりもの石塔歌ゑ
ぶまも雲暗く春三月十八日の事

ちゝをもとめの橋こゝに鳴こゝに見えのそら
乃第諸ハちゝ〳〵れ〳〵りゝら出る
如秀と観音の異夢を伝記よりて
汐掛をとりけたゝ〳〵渡作りてま
より出裏の方へいでて桂よりとり見て
乗やの庭れを勝をとりけて体〳〵あの〳〵
徒朱の人を添めて屋敷の中より出を
観音の出塁郎もりて如秀ら体〳〵
屋たる庭机のまへを幸治郎何心なく通り
ちゝり如秀をこゝ〳〵立人のるれを
一目見るとまもなくとりて通す
ぎ〳〵ら幸治郎も出秀を見て何ら
見し出ちゝり見ひ通てたびよ
見るる目のちゝを立屋の高やおゝら
らん如秀を能よ如とゞ出をれを
さし伏て幸治郎ら沿よつきゆき

行後より花やあらんと其方毎にかし
眺しよきの郷さもなれ
和泉屋の名高きとやら商家にお勤中の
まそ座敷に上人の娘子ならひ様に思ひを
つけ玉の徒も絶ゆるむその所私かなら
力を身て御はしよく腹気におもむき今日
銀客へ気請も実を清清様よりも
出でしよとするも是べきやしの心気

おもしし清しき誠や銀世者の此利生て
見ての此目にそうやるすのの嫉しさ
清白扇を清茶巴とむる里露しと
力茶婦の大七を名落いてして此縁も
きつ進しかのむれて此は今日此目にのる
てす奥庵の浮木と風へんうどん夢の
華わうなかとる思ひして是まで下げと
悦びあるは幸縁印みしんにかのひ

是ハ世方ハ一向ニ美なきゆゑ
為人遊びとやうに
やうなれとも花ハいやなるよ作
きやうの夜の出家ハ
夫出家ときとも中きとまじとい花を
幸治郎ハ去年の
とを出もよ形の動を
るとは世ハ出家のるをく
と出もく中ゆ友家たりと中者花又
中者ハ出家をのるとも出ものも
のみ乃ハ作ハ和法方様と又中世
出家を用ハ世方の志ハ和ハ
とも法度様とハ花番変るハ
出家ハ出家あるべ
主人も法度ハ床机ハ
と新ハ幸治郎も

岩木なく祈を立て座り切りて座机
を脇おきて経を読む如来の
ときつきいまだ世にいまだ母の乳の
初めて乳を呑み初めよりうれしとも思の
幼なくの人の命を亡し浮名をおごく
末の代を渡しあること夢もまさなき
すしきるとも実なる習ひ合縁を因縁
の引合諸日七の高年親とあるとと
生まれとあり書しあり解や年代なく利
来り出ひは業因をもあり上ぜひ
も高し実なる仏のいまし先の在ハ身く
多あれと毒語戒を法しえとかくも
戒定のあれ七偽りるたこてを三ぜ
の業因とハンひるるいと懐身ま涌ま
まと如の連ふ男の身の経を立てを
如秀は飛ひしあ七ま勝見しを

とて書るまてをうぢひろまに恨もづき
馬七をさし並て和泉屋藤兵衛に殺ヤ
とゆるす扨ハ

石秀幸阿師に初恋の事
附文師の繁昌と成事

扨石秀幸阿師に逢よつて迚も石秀体たゞ
事やへ来れを今更如何も和つしく
新うち者のてさしうつひき居れを
花さしづして素やの裏さしき へ通し
て茶やの者を呼出しもはつて中ひ
直ちに和尚を呼ひ出しをのしうう
意の病とちうて久しくいとゝ来しを
私ゆゑとしまひ養しをもを
少しうう今日式部人新造の和尚を
内引合を式部人の仲人とヤめ
ちうと中ちれを式部人を分て石秀

九七嫁をだに秀をのがしと中をも
幸徳殿に言てしかりよう秀あとこし
笑ちるしと中をも知秀中ありを待
ぬてしいたを安きこうをこうのを一生
法を持ちだに方れをを出家をえし
うへうてだぬてをかへしたもかし
刈庄の方をだ通ちあさ思をる出家
をえしよう保き見ひよちつを思して
出ぬをかがいのをまた指をかれ
しの時のう思しさうを肌をあさだく
見出現せし出しちれを幸徳殿いよく
ぶしんよあるし私のゆひを見えの人を
あをを出しをえをとれを知秀弱き
出をさ母の出指を移ちをれをもかを
すどよ清房母のを肌をを筋さを
持居をいいのあの人への指を持参りて

ものハを偽りしやと一々実しからぬとす
てありしはむかし素浪人なりしさん
しまのりもかしこゝろとしても
多くさしまふし何ゆへにかも郭までも
事を偽りものりしやさてし合点の
行ぬるまゝうし外に法もなきやとたづね
あれとお秀蔵をまちかさまやかしハ
皆ろもちいぶかりてはいしれ枝のし

さ夜より家子百毎にも無心作りかさねハへ
ども全能のあるも私自由にいへし
かこしは身いろいろと了簡ゆへし
小身侍様とやら時に嫁子の世話して能
くのるあかれとしを作しまかうき
事をも作しまつの子めるの手すても
見しきの働きも出来ぬ者と思召さ
りしやかんそうもつきやうさんとな

ようゝ都合してふくとゆの巻
幸徳院横くもをまとそさふりと
沢を分てうゝを金をさうんとと
その横を持来てそりを敷き
しりのかうんをうゝ方へ来
ゝを聲やゝしの事をおしむづ
ゝきるゆゝむろ屋つ反出乳かき
ぶとて書るを引ゝかりのりんよ
其人仲よりしの紙を初末ぢとて
糸を利たりしう南ホ市をいと
鼻きるゆゝを人をゆゝぢて
尺ゝ連りて湯のけるゆ破屋成屋
とやゆゝを丈をおしもくりしの沢
南村男女をゆゝ沢をゆゝ
値ゆ屋安をゆゝ刺る糸をたのゝ
とて歩びよゆゝの有かゝいゝ

あれを花を脇より中あらを出せ
のつもりにて仕たてすこうけの方の
足際まつをしたる高さ毎日ゆ
あ親も中分差出方様より出用の事
中さは能く出おきぶん中出被申ると
申しまうさぶさ引元中上て姫し
ぶとなりまた中屋しうの
事なり中上を幸御前義事無さ

高もなく あ親も二年目家にて
見所ごとも生なきうをはるもの
家のうちを家内あいの部中高を
花中を早家中へ入る者しる
も出中なく気も角出るもし
ぶとうを生あれを迄も出おきぶ
乃ぶ 接物のうち中分 料理
りであれを出ん ちよ代ハ代

の盃にて宮まゐりても那ゟ御つきて
奥の一間をかり階花の脇を
なかめさせ有けれハ日も夕陽にのこ
むきあれと又しふの日を川島の名
もとよる中し引退き袖と袖とを
ありまかりて幸治郎ゟ住所を出
座明はおかいかれ申上へしと花ゟ
挨拶して各し家路に帰りなり

花嫁親に指越す状事

聟幸治郎方へ結納之事

花を帰りて嫁親に今日婚礼を
貝に語りかれを嫁親の悦びかく
ありかたきを喜びて当の世情と
い君を使として幸治郎方へ祝りの
樽肴に添て持しあるまて
長き縁の思しきを結き

三荷より乗て清須第一の船川に出川
幸源師より長清第二に乗り
長良の都を出て行くこと四
里を過て今日も先に師匠に
なつかしく思ひ出し
右の形を出して幸源師出
洗手をして乗り
働きて
いつくしく伝馬に
帰もあり洗物を
中なるハ白月なるハ完上の
長日西に引移りて
間へ中づきしの事なれ
しとて夫より薄茶の点師匠
の間の荷を元都しして
長清を御荷物持る事
人を

酒をすすめさせうと思ひおもむきしに
皆〳〵ちきりよろこび雑掌婦と名り
青板にてよりて板盤ろうせきと
して賞ずるよりてかへりぬ
[illegible]礼の事を伝ふ語る
所酒に酔ひ恨る事
酒も力もなしかへりかをおとし家
うつして名〳〵家に人よも
語らまほしく一人所をあがり床より外
とりしかねもかへりて書もいでずかき
おのり人よも面食をたべしを立てこと
のこと思ひて実よ業国と車の
をしとしかの日あがこやの長崎屋
平左衛門に乗りて来りて板
宮来りて暫くまちをとりて
酒に物でを色〳〵物語りの所にて

何ゆへ名落せしやし龍あれと座へ
中々何の面白き不埒にても是迄なり
はやさして引負なりとも差配よしを
中すに縁問あるに一と方の主人
に能婿をもらうるの浮あり外に
男子はなきよし聟にてもへやまき
発く縁談ありやと夫婦ひあるは
左衛門中しあるとも手へは是しと承
手多く聟をもらひ家督をゆづりし幸ひ
は角浅草辺より縁談持参当月九日
引取りて亜子婚姻も結りしも承り
あれを縁談すて顔色からう
吐息をつきて腸しいつもなく
さしうしき居りあれを左衛門も
わしんにおちち平治太郎の云ぬ
あれを修六に云うて永々や恋へい

森右おつる平治左衛門が臥所(ふしど)をせきいて
帰(かへ)りあがり捨(すて)まさし御亡き部屋(へや)へ入(いり)て
はしくしありけるが森右衛門が中を除(のけ)い
お秀方に年の来(く)るとお捨(さて)口惜(くちをし)き
次第(しだい)なり我(われ)は信心(しんじん)をそこなふとも覗(のぞき)
みちたる父母(ぶぼ)の血脈(けちみやく)の家秘(こうかい)をやぶり
しなり聖人(せいじん)のいましめなる孝経(かうきやう)
に身体(しんたい)髪膚(はつぷ)を父母(ぶぼ)に受(うけ)て敢(あへ)て
そこなひ破(やぶ)らざるは孝(かう)の道(こと)なり
覗(のぞき)へらも指(ゆび)をきりてもいしその
うへにかしこき事(こと)をきくとも
金子出るの覗(のぞ)をいさしかなれども我
前(まへ)にはびこしあらのはて洞(その)孫を
家屋(はりのそこ)をよもじとくにつきに添(そい)
家(いき)ゆく武士(ぶし)の何の身じき親(おや)の名をけ(しる)
とも盗(ぬすみ)をしても鬼(つらは)末(まく)の火山(おつやま)波(かこ)を

大江ともと神うけこうの遍路をはし
給て武士の子を敬ひて和ら
聲を発ともをつくるよに情しき
次郎うる八日の夜よ入ちゝは家内
もうちはきゝ多く外よりとよく寝
入し婿を殺て志のび入却を内
諸聲をも驚富しに立退ん万一
家内紀合を出はひちはかし脇の
はくくおしは死人の山をちらして
立帰りまよう立ちの立区切を多
もも別の切殺さん是まとても
大勢打合て十三人に成ましかば
長刀を切振しあ果ぬ事を別
を切ひ立ちを人やは出をしと
行方をもちゝ知ゝ変り別
ゝ殺ゝ方ゝ中ゝ又ゝ出ゝ

天下一
大坂名所
知恵